

SSC 埼玉県障害者社会参加 推進 センターだより

令和5年3月30日 136号

編集

埼玉県障害者社会参加推進センター

〒330-8522

さいたま市浦和区大原3-10-1

県障害者交流センター内

TEL 048-825-0707

FAX 048-825-3070

メールアドレス

ssk080321@bz03.plala.or.jp

HPアドレス

http://saitama-shokyo.org/info/

発行

NPO法人埼玉障害者センター

〒330-8522

さいたま市浦和区大原3-10-1

頒価

一部100円(会費に含まれます)

発行日

10日・20日・30日

埼玉県障害難病団体協議会
(以下、障難協)は、今年で
創立50周年を迎えました。当
時小規模だった障害者支援団
体、難病患者の患者会が集ま
り、共に手を取り合い協力し
ていこうということで立ち上
がりました。運営は、難病当
事者とその家族で行ってきま
した。2009年より、埼玉
県から難病相談支援センター
支援事業を委託されました。
事業内容は、主に相談電話の
対応、難病に関する講演や研
修などを行い、
普及啓発をし
ております。



ピアサポーター養成研修

一般社団法人埼玉県障害難病団体協議会

埼玉県難病相談支援センター

相談員

石井

瞳

いしいひとみ

相談電話についてですが、治
療や薬のことなどの医療知識が
必要な相談電話は、蓮田市にあ
ります東埼玉病院が対応してい
ます。



障難協では、当事者とその家
族であるピアサポーターが、難
病になってからの日常生活につ
いての困りごと、患者会の紹介
就労に関する相談対応を対応し
ています。就労に関する相談は、
労働局の難病患者就職サポータ
ーとも連携を取りながら相談対
応しております。

2023年1月28日と2月
4日の二日間、オンラインに
てピアサポーター養成研修を
行いました。

講師は、群馬県の難病相談支
援センターの川尻洋美さんです。
川尻さんは、保健師の資格を
持ち、長らく難病患者の相談に
携わってこられました。その実
績から、難病患者支援の研究や
相談記録システム製作の助言、
全国の講演会や研修会でご活躍
されています。

初日は、相談対応をする上で
の、気持の持ち方を学びました。
川尻さんは「相談対応は相談者
の自己決定を支援する役割」と
話されました。誰でも、人から
相談を受けたとき、たくさん情
報を伝えたい気持ちになると思
います。確かに情報提供は大事
なことですが、ただ情報だけで
も心さみしい気分になりそうで
す。



話を寄り添って聞いてもらったことで心が救われた：なんて経験はないでしょうか。この話を寄り添って聞く＝傾聴をすること、相談者は「仲間に会えた、一人じゃない。」「やっと辛さや悲しい気持ちをわかってくれた。」という気持ちになります。



そして、話すことで自身の客観的な整理ができます。整理されることで「これからこうしよう」という、自己決定に繋がっていきます。自分の人生は、自分で決めるものです。病気がありながらも、どのように自分の人生を創るかが鍵となります。相談者にとってピアサポーターは、

難病患者として実際に生活している体験談、患者目線の情報になり、生き方のモデルとして希望を与える存在になるのです。

講義前に、参加者から「電話相談に不安がある」声が多く上がっていました。ですが、川尻さんから「存在だけでも意味がある」と言葉を頂き、皆さん安心されていました。また、情報を伝えられなかったり、できることに限界があることをお伝えしたりと、相談者にがっかりさせてしまう場合もあります。しかし、その対応が「自分でやろう」と、自分で動けるきっかけ作りにもなるそうです。

二日目は、具体的な相談対応の仕方について学びました。

ピアサポーターには、最低限のコミュニケーション能力を持ち、人間関係のある程度上手く構築できる人が望ましいとされています。ですがその前に、人の話に共感ができることが重要になってきます。目の前にいる人が、

指に針を刺そうとしているところを想像してみてください。どのような気持ちになりましたか。私は、痛そうで顔をそむけたくなりました。おそらく、私と同じような気持ちになった方は多いのではないのでしょうか。この気持ち「共感」です。つまり、ほとんどの方がピアサポーターになれる力があるということですから。この例え話を、頭の片隅に置きながら読み進めてみてください。



相談を受ける準備として、相談時間などのルールを決め、プライバシーが守れる場所を確保します。安心して相談できることを伝え、相談者の話を傾聴していきます。傾聴する時には、

話される内容をそのままを受け止め、「こうすべき」などの、誘導するような助言をしないようにします。このように、丁寧な対応をしていくことによって、相談者は安心して自分の気持ちを言葉にすることができ、それによって、自分の力で問題に気づき、気持ちの整理ができ、自己決定に繋がります。相談者が「病気が怖い」と話されたら「病気が怖いよね」と伝え返したり、「病院に不安があつて：」「そうか、病院に行きたくないんだね」と気持ちを反映させたりすることで、相談者は「話を聴いてくれてるんだ」と救われた気持ちになります。

情報提供は「こういう方法もあります」と提案し、どう利用するかを相手の裁量に任せます。時には、相談者が相談員に答えを求める場合があります。その際は「あなたの場合、どれがあっていると思いますか？」とお聞きし、相談者の自己決定を

尊重します。相談者の自己決定が、一般常識と離れている場合もあります。それでも、相談者が決めたことを正解として、どうすれば正解に近づくのか一緒に考えていきます。

川尻さんは、気取らず、ざっくばらんに講義をして頂きました。その生の声である講義だからこそ、自身の対応と重ねて考えることができ、しっかりと学ぶことができました。そして、相談対応をしている参加者を労って頂き、日々の対応が報われた気持ちになりました。ピアサポーターのブラッシュアップと安心感を与える研修でした。



生活訓練事業

結成50周年のコールフアミリー



団長

かねこ しょうじろう
金子 正次郎

コールフアミリーは、視覚障害者と晴眼者が一緒に歌う合唱団です。1973年の結成ですから、今年は結成50周年です。

50周年の記念コンサートを計画しておりますが、コロナの影響で練習が進まず、コンサートの実施は、来年になりました。

合唱教室も、ピアノのある広い会場探しや参加者集めに苦労しましたが、4回実施することができました。

発声練習後、

♪「小さい秋みつけた」
♪「里の秋」
♪「月の砂漠」
♪「見上げてごらん夜の星を」
♪「冬の星座」
♪「清しこの夜」
などを、楽しく歌いました。



今年は3年ぶりにさいたま市民音楽祭が開かれ、久しぶりに大きな会場で歌うことができました。又3月4日には、埼視会結成50周年の集いで、障害者交流センターの舞台で、歌わせていただくことになりました。

生活訓練事業

本人の自立に向けて

公益社団法人埼玉県手をつなぐ育成会

事務局長

根本 ねもと

浩伸 ひろのぶ

障害者の社会参加を推進する

ことを目的に、知的障害を持つ

本人の自立促進を図る事業とし

て、毎年実施しています当法人

の生活訓練事業は、県内を東西

南北の 4 ブロックに分けて各ブ

ロックにおいて、自活を目指し

ての料理教室や災害に備えての

避難訓練、また、心を豊かに保

つための音楽療法を兼ねた音楽

鑑賞会など多彩な内容で実施し

ています。ただこのコロナ禍に

おいては、計画してもコロナ感

染者の感染拡大により、やむを

得ず実施を断念するケースも多

くありました。

その中で、今年度なんとか実

施に至ることができた 2 事業を

ご報告させていただきます。

報告 1

「おにぎりふれあいコンサート」

日時 令和 4 年 12 月 10 日 (土)

会場 秩父市伝承館 2 階ホール



当日は、生活訓練の一環とし

て、座席を予め配置せずに本人

自身で椅子を出して、自分が見

やすい場所を

探して座るこ

としました。

ただ、多くの

人が戸惑って

しまい、なか

なか席に着け

ず。本人には、少々無理を押し

付けてしまった様で、反省点と

なりましたが、いつも誰かが準

備してくれることや、誰かの支

援があることを当たり前と考え
るのではなく、自立するために
は、自分のことを自身で出来る
ことの喜びも感じてもらいたい
と思いました。

コンサートは、久しぶりの生
演奏、伝統的な太鼓やピアノの
演奏では、感動があり、フラダ
ンスやみんなが知っている曲の
演奏では、会場全体で一緒に参
加する楽しさを感じてもらえた
様子で、企画としては一定の成
果があったものと考えます。

報告 2 「性教育学習会」

日時 令和 5 年 1 月 29 日 (日)

会場 久喜市栗橋文化会館イリス

男女別々の内容で部屋も別に
して実施しました。

男性グループのプログラムは、
進行役から幾つかの性にもつな
がるテーマ等の題材が出題され、
それに対して本人が自由に思い
ついたままをメモし、それを一
人ずつ発表する中で、問題点な
どを掘り起こして、参加者同士

で議論を進める形で、男性とし
て異性に対し、どう有るべきか
を考える時間としました。

また、女性グループのプログラ
ムでは、講師から具体的な性
への知識を本人に分かりやすく
丁寧に説明していただき、自分
自身を大事に考えることの重要
さを基に将来に向けて自分らし
く生きるためにどう有るべきか
を考える時間としました。

この本人たちの性への学びは、
今後も継続的に実施すること
が大切と
考えます。



生活訓練事業

埼玉県障害者社会参加推進センター事業

社会福祉法人 埼玉県身体障害者福祉協会

まつもと
松本 然恵 のりえ

令和4年11月9日(水)に
埼玉県障害者交流センター
で社会参加推進事業「料理
講習会」を3年ぶりに開催
することが出来ました。

この「料理講習会」は、年に
1回、テーマを決めて、季節の
旬な食材を使い4品程、協力し
あい調理実習が行われ、みんな
で楽しく試食会をして、参加者
同士の交流を深めていました。
コロナ禍が続き、この飲食を
伴う活動が難しくなり、残念な
がら一昨年・昨年と中止として
きました。



そこで今回は、実習ではなく
食育活動に力を入れている、キ
ューピー株式会社に講習会を依
頼しました。

「楽しく食べて健康に」をテ
ーマに、映像や資料を見ながら
健康寿命、高
齢期の食事、
食欲の維持な
どお話しただ
きました。



今後の食生活の改善を行うた
めに、一日にどれくらい栄養素
を摂取したかが確認できるチェ
ックシートの活用方法や、嚥下
機能を上げる「ぱたから体操」
も紹介していただきました。

生涯健康のためには、

「栄養」

「運動」

「社会参加」

3つの柱が必要だそうです。

参加者の中には、自分たちの
地域の福祉会でも講演会を利用
したいとの声もありました。
これからも、埼玉協事業とし
て人とのつながりを大切に、
参加者が前向きになれるような
活動を行っていききたいと思いま
す。



フラワーアレンジメント体験報告

特定非営利活動法人埼玉県障害者協会

郷古 珠美

生活訓練事業

令和 4 年度埼玉県障害者社会参加推進事業のひとつとして、

令和 5 年度 2 月 28 日 (火) にフ

ラワーアレンジメント体験を実

施しました。講師は埼玉県障害

者交流センターの事業で長年指

導していらつしやる倉田千恵子

先生です。

倉田先生の指導は丁寧でわかりやすく、花材ごとにそれぞれの名前・切り方・位置について、手本を作りながらの説明があり、そのあと一人ひとりの机を回って参加者の作品を見ながら指導してくださいました。

春を間近に感じられる時期に開催した今回の体験では、スプレーストックやスイートピー、チューリップやガーベラ、カーネーションなどさまざまな春の花を使い、薄いピンクや濃い紫、

黄緑や白、深い赤など多くの色で彩られて、それぞれの個性が出た華やかなアレンジメントが出来上がりました。



倉田先生の作品

私自身がまったくの初心者で、花材を一つずつ配られた時には全体像が全く想像つかず、恐る恐る花を挿していきしましたが、時折先生が修正をしてくださったおかげで、若干アンバランスながらもなんとか作品を完成させることが出来ました。

この体験に参加した方の中に

は、ノートテイク(要約筆記)を介しながら参加した聴覚障害の方がいて、私は今まで会議や行事の際、手話通訳者の派遣は何度も依頼してきましたが、要約筆記の派遣依頼をするのは今回が初めての経験でした。

そのため、明るさの足りない

会場では太めのボールペンより

水性のサインペンにしてほしい

との依頼があったり、用紙が途

中で足りなくなり在庫を取りに

行くことになったりと、こちら

の知識のなさから関係者の方に

ご迷惑をおかけしてしまいました。

ただ、幸いなことに参加者

ご本人には楽しかったとのこと感

想をいただきましたし、要約筆

記者が書いた、太いサインペン

で大きく書いた見やすいきれいな

文字で先生の指導の要点が書

かれた十数枚の用紙みて、なる

ほど用紙がたくさん必要だし、

この文字の大きさならボールペ

ンよりサインペンだなと実感で

きたので、今回の失敗を良い教

訓として次の機会に活かしたいと思いました。

また、今回弱視の方の隣の席で作業しましたが、介助の方と先生の指導を聞きながら「この花はこのくらいで切ればいいのか?」「もう5センチくらい切ったほうがいいのかも」「もう少し右に、そうそう」など、二人一組で会話しながら楽し気に作業をする姿も拝見しました。

様々な方がいろんな形で参加し、花に触れることで心と気持ちができた体験になったと思いました。



生活訓練事業

令和4年度第2回埼玉県社会参加推進協議会並びに
社会参加推進事業実施団体調整会議 開催報告

埼玉県障害者社会参加推進センター 事務局

令和5年2月28日(火)、埼玉県障害者交流センター2階の第1・第2会議室にて、令和4年度第2回埼玉県社会参加推進協議会並びに社会参加推進事業実施団体調整会議が開催されました。

この会議には、社会参加推進事業の各実施団体の他、埼玉県福祉部障害者福祉推進課社会参加推進・芸術文化担当の高橋洋史主査にご出席を頂きました。

当事業は埼玉県内の障害者の社会参加を推進するため、埼玉県障害者協議会が埼玉県の委託を受けて、埼玉県障害者社会参加推進センター事業として実施しています。令和4年度事業では、10の実施団体を通じて、講

習会や各種体験など、障害者が日常生活を送るために必要な指導、訓練等の開催を予定しています。当日の会議では、各実施団体より令和4年度社会参加推進事業についての報告が行われました。

令和元年度に発生した新型コロナウイルス感染症の流行により、令和元年度第4四半期〜令和2年度中は多くの実施予定の事業が中止を余儀なくされました。事業への参加そのものを辞退した団体もありました。



コロナ禍にも収束の兆しが見えてきた今年度は、いまだに事業実施回数の減少や、一部事業の中止・縮小もありましたが、感染対策の徹底やZoomをはじめとしたオンラインの活用、講習会の内容の変更などさまざまな工夫をした結果、多くの団体で事業が実施されました。しかし、コロナ禍の前に比較して参加人数・実施回数共に減少傾向であることはどの団体にも共通しているようでした。

全体を総括して、高橋主査からは「皆さんの報告から、今年度は多くの団体で令和3年度よりは活動できているけれどもまだコロナ禍の影響が出ている状況だと思っています。しかし5月以降はご承知の通り新型コロナウイルス感染症も5類に変わるため、

今年度とはまた事情が変わってきます。来年度は本格的にアフターコロナの時代に入ります。この事業では来年度も今年度並みの予算を確保できる見込みです。ですので、皆様引き続き生活訓練事業を積極的に進めていただければと思います」とのお言葉をいただきました。田中センター



所長は「ウィズコロナの状況が続き、その中で多くの知見が出てきました。この3年間で得た経験を活かし、新年度も各団体で積極的な事業活動をお願いします。」とまとめ、会議は終了いたしました。

NPO 法人埼玉県障害者協議会

～令和 5 年度 (第 43 回) 総会のお知らせ～

日 時：令和 5 年 5 月 21 日(日) 13 時 30 分～16 時 30 分

会 場：埼玉県障害者交流センター ホール



【総会の前に研修会を開催します。どなたでも参加できます。】

テーマ：「障害者権利条約の目指す社会へ」

～国連障害者権利委員会が日本政府に示した総括所見(勧告)の課題と展望～

講 師：佐藤久夫さん(日本社会事業大学名誉教授 日本障害者協議会理事)

時 間：14 時～15 時

★ ★ 総会、研修会参加者には感染対策に御協力をお願いします。★ ★

<賛助会員募集のコーナー>

私たちは、埼玉県障害者協議会の活動を応援しています

視覚障害者にも
楽しい老後を！

もう一度青春 ひとみ園！

社会福祉法人日本失明者協会

養護盲老人ホームひとみ園

〒366-0811 埼玉県深谷市人見1665-3

電 話 048-573-5222

メール hitomien5222@yahoo.co.jp

晃新印刷

〒336-0931 埼玉県さいたま市緑区原山2-23-25

電話 048-887-8006 FAX 048-887-3444

<賛助会員加入のお願い>

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。

賛助会員には年 8 回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。

賛助会員の会費は、年一口 2,000 円です。入会をご希望の方は、下記の口座へお振り込み下さい。

<郵便振替> 【口座番号】 00130-9-673233

【口座名称】 特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会



編集後記

ついこの間新年を迎えたばかりのような気がしていましたが、気が付くともう 3 月になっていました。このセンターだよりが発行される頃には、事務局のある障害者交流センターのたくさんの桜が満開になっているはずです。花見を楽しみに待ちながら、年度末の作業を乗り越えたいと思います。

(郷古)